

## 京奈和道 紀の川IC通行止めに係る 交通マネジメント検討会(第3回)

### 結果概要

紀の川IC通行止め解除見通しが12月中との発表を受け、これまでの取組に対して、検討会の委員より、以下の課題や意見が出された。

#### 交通マネジメント検討会の成果

- ・IC通行止めに伴い、隣接ICを利用する交通を広域農道や生活道路へ流入させないため、交通流動分析や同検討会での意見も踏まえ、道路情報板での情報提供、案内看板設置及びHP・SNSによる情報発信により交通案内を行い、新たな交通混雑の発生など、周辺道路への影響を最小限とした。
- ・また、交通モニタリング調査の結果、追加対応が必要な際は、同検討会で議論し、案内看板の追加設置など、適時、機動的な対応を図った。
- ・関係機関が連携し、交通状況や市民生活への影響の把握に努め、特設サイトや関係機関も含めたHPやSNSによる情報発信を行った。

#### 適切な交通案内

- ・案内看板については、迅速な設置や分かり易い案内を図るため、デジタルサイネージの活用など、情報提供手法の検討が今後必要である。
- ・交通案内経路の設定にあたっては、通学路の有無や緊急車両の通行も考慮しておく必要がある。

#### 交通状況の把握と発信

- ・交通モニタリング調査において、現地に自動交通量計測機器(トラフィックカウンター)が設置されていない箇所があり、迅速かつ、きめ細かい交通状況把握を行うため、可搬型交通量観測装置を活用するとともに、ドローンでの状況把握も検討すべき。

- ・通勤など時間帯により交通状況の変化もあるため、時間帯別の交通状況も把握をしておく必要がある。

#### 市民生活への影響

- ・関係機関へのヒアリング結果では、IC通行止めに伴う通勤通学や救急搬送に対して市民生活への影響は確認出来なかったが、通行止め期間が長期間となったことから、日常生活の利便性など、きめ細かな影響把握も必要である。

#### IC 通行止め時の交通マネジメントの知識の蓄積と発信

- ・今回の取組については、IC通行止めにより生じる生活道路等への流入を抑制すると言った地域交通に着目した取組であった。今後、同様の事象が発生した場合に備え、知識の蓄積と取組内容の発信が必要である。

以上